

科目ナンバリング		U-LAS01 10005 LJ38					
授業科目名 <英訳>	東洋史 I Oriental History I			担当者所属 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 古松 崇志 人文科学研究所 准教授 村上 衛 人文科学研究所 教授 石川 禎浩		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	歴史・文明(基礎)		使用言語	日本語	
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義
開講年度・ 開講期	2021・前期	曜時限	火2	配当学年	全回生	対象学生	全学向
<b>【授業の概要・目的】</b>							
<p>近年、緊張していた日中関係はやや好転したものの、依然として対立の火種は解消せず、日中両国民の相手国に対するイメージも改善にはほど遠い状態である。加えて、コロナ禍によって、日中の経済的、政治的関係の今後が不透明感を増し、さらに米中対立の構図の中で、日本はその立ち位置をどう定めるのか、難しい判断を迫られている。日中が切っても切れない関係にあることを考慮するならば、その関係が長いスパンで見た場合、どのように推移し今日に至っているのかを知ることが、間違いなく重要である。本講義は、このような現状を意識しつつ、長期的な視野から10世紀から20世紀後半までの日中関係を政治・社会・経済・文化の多様な側面から検討する。そして日中間の交流・対立や相違点・類似点についての歴史的理解を深めるようにしたい。</p>							
<b>【到達目標】</b>							
<p>10世紀から20世紀後半までの日中関係について、政治・社会・経済・文化面を中心に基礎的な知識を習得し、日中間の交流・対立や日本と中国の相違点・類似点について歴史的に理解できるようになる。</p>							
<b>【授業計画と内容】</b>							
<p>第1回 ガイダンス  第2回 海商と巡礼僧(古松)  第3回 モンゴルの日本襲来(古松)  第4回 13・14世紀の大交流(古松)  第5回 元明交替と室町文化(古松)  第6回 日中の差違 明末～清代中期(村上)  第7回 明治維新と洋務運動(村上)  第8回 在華紡と中国紡(村上)  第9回 近代日中製糸業の展開(村上)  第10回 日中対立と中国経済(村上)  第11回 中国国民党と中国共産党の比較(石川)  第12回 蒋介石・毛沢東の日本観(石川)  第13回 日中戦争と戦後処理(石川)  第14回 日中国交回復への道のり(石川)  《期末試験/学習到達度の評価》  第15回 フィードバック</p>							
<b>【履修要件】</b>							
特になし							
----- 東洋史 I (2)へ続く -----							

## 東洋史 I (2)

### [成績評価の方法・観点]

定期試験（筆記）

### [教科書]

使用しない  
適宜プリントを配布する

### [参考書等]

（参考書）

荒野泰典・石井正敏・村井章介（編）『日本の対外関係 3 通交・通商圏の拡大』（吉川弘文館）  
ISBN:978-4-64-201703-9

荒野泰典・石井正敏・村井章介（編）『日本の対外関係 4 倭寇と「日本国王」』（吉川弘文館）  
ISBN:978-4-64-201704-6

吉澤誠一郎『シリーズ中国近現代史 清朝と近代世界』（岩波書店）ISBN:978-4-00-431249-9

川島真『シリーズ中国近現代史 近代国家への模索』（岩波書店）ISBN:978-4-00-431250-5

石川禎浩『シリーズ中国近現代史 革命とナショナリズム』（岩波書店）ISBN:978-4-00-431251-2

久保亨『シリーズ中国近現代史 社会主義への挑戦』（岩波書店）ISBN:978-4-00-431252-9

### [授業外学修（予習・復習）等]

参考書などを読み、中国近世・近代史についての基本的知識を身につけてから講義に臨むこと。

### [その他（オフィスアワー等）]

教員（石川禎浩）の連絡方法は以下のとおり

メール：ishikawa@zinbun.kyoto-u.ac.jp 電話：内6934

オフィスアワー：毎週月曜9:30-10:30